



BOB会 関東支部だより

JTBグループ OB・OG会
関東支部

〒110-0005 東京都台東区上野1-10-12 商工中金・第一生命上野ビル7階
電話 03-6284-4875 FAX 03-6284-4876
関東支部ホームページアドレス https://jtbob.com/kanto_hp/wp/

11/1 2023年
(令和5年)
第380号

発行: BOB会関東支部



関東支部忘年懇親会を開催します

II 12月4日(月)

初めての会場「学士会館」II

昨年コロナ禍ではありましたが、3年ぶりに関東支部忘年懇親会を開き、多くの方がご出席くださいました。

今年も同様に、ただし会場を新たにして開催いたします。

多くの皆様のご出席をお待ちしております。

期日 12月4日(月) 12時～14時

11時30分より受付

会場 学士会館

当日連絡先はBOB会事務局

070-(2629)6158

○都営三田線・新宿線／東京メトロ半蔵門線・神保町駅

A9出口徒歩1分

○東京メトロ東西線竹橋駅3番出口徒歩5分(階段のみ)

○JR中央線・総武線御茶ノ水駅御茶ノ水橋出口徒歩15分

a 8500円(同伴者同額)

◆会費 懇親会形式・その他

○立食ビュッフェスタイルですが、椅子も少し用意いたします。

○例年どおり抽選会も行います。

景品にJTBナイスギフト、JTB旅行券などを用意しました。

○お土産には「旅の絵ごよみ」1冊

本をお持ち帰りいただきます。
◆参加申込 同封の参加通知ハガキを11月22日(水)事務局必着となるよう、ご投函ください。

◆会費の支払い 同封の郵便払込取扱票で、11月22日(水)までに郵便局にてお払い込みください。銀行では取り扱いできませんので要注意。

◆払込手数料は関東支部が負担。1枚で2人以上払い込む時は通信欄に参加者名を記入。

○取消料 11月1日(金)、17時までに取消の場合は無料。それ以降は、当日取消を含め6000円をいただきます。入金済の場合は、ご指定の口座に振込手数料を差し引いた金額を返金、未入金の場合は請求させていただきます。

◆ルックカレンダー ルックカレンダーは事前予約制での取り扱いのみで、既に7月31日に締め切っています。なお、今年もBOB会として、会場での販売は行いません。

季折々に魅力ある箱根ですが、今回は晩秋の箱根を訪れます。今年7月12日にグランドオープンした「箱根ホテル小涌園」に泊まって温泉を楽しみ、夕食はビュッフェスタイルです。翌日は朝食後解散になります。

その後は、美術館を巡ったり、新しくなった乗り物に乗って絶景やグルメを楽しむ等、自由に散策してください。皆さんにお目にかかるのを楽しみにしています。

期日 11月30日(木)～12月1日(金)
集合 新宿駅南口 小田急改札9時
実施日 11月15日(水)
内 容 秩父札所巡り(第4回)
東京の晩秋を楽しむ『野川緑地公園から実篠公園』
『史跡巡りシリーズ』江戸城御門巡り内堀～本丸
晚秋の箱根を訪ねて！(1泊2日)
なんたい俱乐部忘年懇親会
関東支部忘年懇親会
北関東俱乐部忘年懇親会(1泊2日)
ときわ路俱乐部忘年懇親会
『史跡巡りシリーズ』雑司ヶ谷七福神巡り
京葉俱乐部30周年記念パーティー
湘南俱乐部創立30周年記念新年会

行程	1日目	新宿駅	(小田急ロマンスカー) 箱根湯本駅
2日目	朝食後解散	(チエックアウト10時)	(チエックイン15時)
定員	32000円(宿泊・箱根フリーパス・往路小田急特急料金・保険込)	20名	
会員	11月22日(水)～	取消料発生	
締切	11月15日(水)	主催	常磐俱乐部

第31回作品展間もなく開催

今年の作品展は11月7日(火)～10日(金)まで開催されます。最終日には写真家の御堂義乗さんに、写真作品の講評をいただく予定にしています。多くの方のご来場をお待ちしています。

参 加 者 募 集
お申し込みはBOB会事務局へ
(所属俱楽部名・年齢要)

晩秋の箱根を訪ねて！(1泊2日)

何回訪れても新しく変わっていく箱根に行つてみませんか？

ゴルフコンペ募集一覧

詳細はHPの各俱楽部主催ゴルフ(募集)参照。

開催日	コンペ名	場 所	主 催
12月20日(水)	第143回なんたい杯ゴルフ	ラインヒルGC	なんたい
11月8日(金)	第82回ゴルフコンペ	霞台CC霞コース	常磐
11月8日(金)	第121回ゴルフコンペ	グランドラムCC	ときわ路
第144回なんたい杯ゴルフ	相模湖CC	湘南	湘南
第104回ゴルフ会	イーストウッドCC	南	なんたい

なんたい俱楽部忘年懇親会

まだ、コロナがスッキリしませんが、今年も恒例の忘年会を開催します。皆様の元気なお顔がそろうことをお楽しみにしております。

お土産に「旅の絵ごよみ」をお持ち帰りいただきます。

期日 12月2日(土) 集合10時45分

会場 県庁舎15階(最上階)

会費 3000円

締切 11月20日(月)

主催 なんたい俱楽部

担当 石下 良子

北関東俱楽部忘年懇親会
(1泊2日)

昭和の放浪画家・山下清画伯が

こよなく愛した名湯・上牧温泉

「辰巳館」で忘年会を開催します。

この機会に、会員の皆様の親睦を

深めていただきたく、ぜひお誘い

合わせの上、多数のご参加を心よ

りお待ちしております。

期日 12月4日(月)～5日(火)

会場 現地集合・解散

JR上越線上牧駅徒歩5分

(宿より迎えあり)

会費 15000円(宿泊・宴会

時飲み物・二次会・諸税込)

取消 当日 12月1日(金) 7500円

主催 北関東俱楽部

担当 落合 守夫

☎ 090-(2643)5756

*北関東俱楽部会員の方には、「出欠連絡ハガキ」を同封します。出

欠にかかります。11月15日(水)までにご投函ください。他俱楽部の方は、落合までご連絡ください。

ときわ路俱楽部忘年懇親会

師走の半ば、令和5年締め括りの忘年懇親会を開催します。ときわ路俱楽部は、2017年7月に

発足し、今年で6年目を迎えます。

今年はコロナ禍に加え、インフルエンザの猛威! 感染対策を万

全にして、愉しい忘年会となるよ

う企画したいと思います。俱楽部

会員に加え、近隣各俱楽部、さら

にJTB各支店の皆さんのご参加

もお待ちしております。

定員 25名
会費 4000円(昼食・保険込)
*色紙500円、鬼子母神、大鳥神社にて販売。

取消 1月4日(木) 4000円
主催 東京23俱楽部
担当 杉田 成次

☎ 090-(5807)6220

寺(福禄寿)(昼食)解散
歩行距離約5km

湘南俱楽部創立30周年記念新年会

毎年恒例の新年会ですが、コロナ禍により3年間開催を見送り、4年ぶりに、1年遅れの湘南俱楽部創立30周年記念を兼ね、新年会を開催します。

新しい年が明るく良い年になるよう、また久しぶりの会話と美味しい食事で仲間と親睦を深められます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

『学芸シリーズ』歌舞伎座観劇会(7回目)(報告)

歌舞伎座公演鑑賞を8月16日に実施しました。前日まで台風7号の影響が心配でしたが、当日は天気も回復し、32名が参加しました。リピーターも多く、ご夫婦や家族連れが12名参加され、和やかな雰囲気でした。

演目は松本幸四郎主演の「新門辰五郎」と舞踊「団子売り」です。

「新門辰五郎」は江戸町火消し、浅草十番「を組」の頭で将軍家茂の供として上洛、祇園の火事を消したことから評判を高めます。それまで京を守っていた会津方はこれを妬み、溝は深りますが…

最後は松本幸四郎の辰五郎と中村勘九郎の会津の小鉄との味わい深い話し合いで決着します。幕末の

京都を舞台に男氣溢れる辰五郎の苦悩を描く群像劇で、男同事の会話の応酬や祇園の火事によって江戸町火消しの本性に目覚める辰五郎の様子など見応えがありました。

「団子売り」は坂東巳之助と中村児太郎の息の合った団子売りの姿を舞踏化した軽快な踊りでした。

猛烈な残暑の中、華やかな歌舞伎の舞台を楽しみました。(森記)

9月13日、参加者13名は、まず『ふるさと歴史館』にて東村山の基礎知識を学びました。板碑(いたび)という、主に供養塔として用いられる石板を保存する『徳藏寺』や、新田義貞軍と鎌倉幕府軍の合戦が繰り広げられた『久米川古戦場跡』を訪ねた後、標高90mの『八国山緑地』へ。木々の緑と鳥のさえずりに癒やされました。

『たいけんの里』では、この地には縄文時代から人々の暮らしがあったことを知りました。『北山公園』では曼珠沙華の群生を期待していました。

『大善院』では、築山の隅に一輪の曼珠沙華を発見。北山公園では



俱楽部だより

東京23俱楽部

歌舞伎座観劇会(7回目)(報告)

歌舞伎座公演鑑賞を8月16日に実施しました。前日まで台風7号の影響が心配でしたが、当日は天気も回復し、32名が参加しました。リピーターも多く、ご夫婦や家族連れが12名参加され、和やかな雰囲気でした。

演目は松本幸四郎主演の「新門辰五郎」と舞踊「団子売り」です。

「新門辰五郎」は江戸町火消し、浅草十番「を組」の頭で将軍家茂の供として上洛、祇園の火事を消したことから評判を高めます。それまで京を守っていた会津方はこれを妬み、溝は深りますが…

最後は松本幸四郎の辰五郎と中村勘九郎の会津の小鉄との味わい深い話し合いで決着します。幕末の

京都を舞台に男氣溢れる辰五郎の苦悩を描く群像劇で、男同事の会話の応酬や祇園の火事によって江戸町火消しの本性に目覚める辰五郎の様子など見応えがありました。

「団子売り」は坂東巳之助と中村児太郎の息の合った団子売りの姿を舞踏化した軽快な踊りでした。

猛烈な残暑の中、華やかな歌舞伎の舞台を楽しみました。(森記)

武藏野俱楽部

国宝正福寺地蔵堂を巡る(報告)

東村山八国山緑地と

バカ殿様で一世を風靡した志村

けんさんの出身地東村山市には、

イタリア料理の昼食後に訪れた『大善院』では、築山の隅に一輪の曼珠沙華を発見。北山公園では

開花が遅れていて残念でした。

『国宝正福寺地蔵堂』は禅宗様式建築で、その優美な姿に感動しました。

叶わなかつただけに心和みました。
残暑厳しい一日でしたが、各人
楽しい思い出を胸に解散しました。
なお、当日のフォト日記を関東
支部HPに掲載していますので、
ご笑覧ください。
(山田 記)

北関東俱楽部



車山高原ハイキング（報告）

梅雨空の下、7月14日、高崎駅に20名が集合し、貸切バスにて車山高原に向け出発しました。途中、道の駅「ヘルシーテラス佐久南」で休憩後、車山高原駐車場に到着。雲行きが怪しくなってきたので早めに写真撮影をし、2本のリフトを乗り継ぎ、1925mの山頂に向かいました。残念ながら、山頂は霧がかかり辺りは真っ白で何も見えませんでした。

昼食後、山頂から下りていくと高原らしい景色となり、爽やかな風やウツボグサなどの様々な高山植物、小鳥のさえずりも心地よく感じました。

約3時間のハイキングで、休憩をとりながら、斜面では転ばないよう皆で声掛けをしました。途中、可愛らしく咲いているニッコウキスゲの群生に癒やされたりもし、無事、八島ビジターセンターに到着できました。

もう少し楽なハイキングを想像していましたが、平均年齢70歳の参加者には少しハードでした。しかししながら、帰りのバスの中では次回の親睦旅行の話で盛り上がり、皆さんまだまだ元気です。

澄んだ空気の中、「車山高原」の大自然を満喫できました。 (市川 記)

長岡大花火鑑賞（報告）

8月3日、全国的に猛暑となりましたが、越後長岡も他に違わず暑い日でした。

念願の長岡大花火鑑賞を、ちょっと強行日程でしたが、日帰りで実施しました。交通手段や有料観覧席の確保に限りがあり、参加者も20名に限定。期待感と不安感の入り混じる企画でしたが、20名の元気な後期高齢者は存分に楽しむことができました。

まず、慰靈と平和を祈る10号玉3発が打ち上げられ、いよいよ開幕。その花火紹介の場内放送にびっくり……何とJTBグループ提供のナイアガラ超大型スター・マインとのこと。ここ数年の厳しい環境下に置かれた社のことが頭をよぎり、目頭が熱くなりました。大観衆の大歓声と割れんばかりの拍手がJTBへの応援に聞こえ、涙、涙の開幕になりました。休みなく打ち上げられる超、超大型花火が

音楽とのコラボで演出され、言葉では言い表わせない感動的な暑い、熱い時間を過ごしました。

帰りの長岡駅の混雑は予想どおりでしたが、JR新潟支社、新潟県警、地元ボランティア等多くの方々の誘導で、動線もきちんと設定され、混乱なく安全に予定した新幹線に乗車できました。花火の感激と興奮が覚め止まぬまま帰路につきました。

猛暑ではありましたが、体調不良者や事故もなく、無事に終了しました。
(今井 記)



深谷市歴史探訪「論語の里と花園プレミアムアウトレットの旅」（報告）

9月29日、晴天の下、深谷駅に18名の参加者が集合。最初に、尾高惇忠生家を訪ねました。渋沢栄一の従兄であり、論語の師でもあつた所謂「教育者」惇忠の話をボランティアガイドさんから聴きました。

次に、渋沢栄一記念館と旧渋沢邸（中の家）を見学しました。栄一のアンドロイドと映像を組み合わせた『イマーシブシアター』で、故郷の血洗島の思い出や栄一の人となりを改めて勉強しました。



中華街にてランチ&横浜散策（報告）

9月21日、参加者14名にて実施。猛暑が続いていましたが、当日は少し気温が下がり、散策には良い陽気でした。

JR石川町駅に集合してから中華街（慶應2年の横浜新田居留地時代から150年以上の歴史を持つ東南アジア最大の中華街）を散策し、「状元楼」にて昼食。

その後、山下公園、氷川丸船内を見学し、明治末期から大正初期に国の模範倉庫として建設、平成14年から商業施設として40店舗を超えるテナントが入店している赤レンガ倉庫群を散策。

最後に、運河パーク駅よりYOKOHAMA AIR CABI Nに乗って、JR桜木町駅に行く予定でしたが、何と私達の乗る便から強風で運休になってしまい、徒歩にて駅に向かい、帰路につきました。

最後に、運河パーク駅よりYOKOHAMA AIR CABI Nに乗って、JR桜木町駅に行く予定でしたが、何と私達の乗る便から強風で運休になってしまい、徒歩にて駅に向かい、帰路につきました。

さきたま俱楽部

冰川丸前の桟橋にて（石黒 記）

同好会だより

やぐるま(川柳会)

9月の互選句

遠い日を昨日の如く語り出し
手塚 実

長老が病歴自慢にこにこと
自己主張老いの一徹譲らない
老いたとて負けぬ根性歩幅かな
歳ごとに病名増えて友減りて
長い加減つい比較するクラス会
竹田 圭子

横山 信之
岡田 秀雄
荒井 春雄

もたもたと家事に追われる老の日々
老いたとて負けぬ根性歩幅かな
丸木 正登
(手塚 記)

9月の互選句
夜なべして時計の音の響く部屋
原発の灯火暗し秋出水
生温き夜風に虫の声しきり
天空の海に揺られし秋の風
行川 春枝

田中 君子

富岡 遊生

高宮 澄子

柿紅葉其処に止まる入り日かな

大庭 英雄

森木 茂子

昨日今日明日も変わらぬ鰯雲

吉田 勝彦

行川 春枝

夜なべの茶旅の記念のマグカップ

ドバッゲに入れ、友人、知人に見

せびらかして歩いた。「このよう

なお便りをいただいて、舞い上が

らぬ方がおかしいわね」と言つ

て。「万年筆の書き物では軸装は

できない、額装にしたら」と言わ

れ、そうした。今、我が家鴨居

を飾っている。

豊明宮(改装前)も参観した。何

とそこには高さ5mはあると思わ

れるブランコがあるではないか!

1998年3月、韓国旅行の折、

豊明宮(改装前)も参観した。何

とそこには高さ5mはあると思わ

れるブランコがあるではないか!

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつっていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつっていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、

女性を乗せて漕ぐと頭がくらくら

する、何故だかわからないが…」

とある。俳句の春の季語に『ブランコ』があり、ある句会で兼題に

出された時に幼稚園のブランコの

ことを詠んだのだが、あの一節が

ずつと引っかかるつていた。

それを見た時に「これだあ！」と

思つた。あそこまで高く上がれば

外は見られるし、漕ぎ手は乗つて

いる人を下から仰ぎ見ることにな

る。下着などはいていない時代、

あそこは丸見え。金瓶梅の主人公

が「頭がくらくらする」のは当然

のことと丸谷先生はわかっています

が、丸谷先生の著作に『青い雨傘』

というエッセイ集がある。その中に『ぶらんこ』という一稿があり、

「ぶらんこ・ぶらっこ、いわゆる

ブランコは北方騎馬民族の習俗で

あるらしい。金瓶梅にも主人公が、</p